

令和4年度 岩手県中学生スポーツ・文化活動セミナー開催状況

1 開催日時 令和5年2月18日(土) 13時～16時30分

2 会場 田園ホール(矢巾町文化会館)

3 開催内容

(1) 説明

「いわての中学生のスポーツ文化活動のこれから」

岩手県教育委員会事務局 保健体育課

○別添資料により説明。

(2) 講演

「部活動の地域連携・地域移行と地域スポーツ・文化芸術環境の整備について」

スポーツ庁地域スポーツ課 鴨志田課長補佐

○別添資料により説明。

(3) 実践発表

「地域部活動推進実践研究事業における大船渡市スポーツ協会の実践について」

一般財団法人大船渡市スポーツ協会 白崎事務局長

○スポーツ庁から委託を受けた標記事業の実践研究結果について別添資料により説明。

・大船渡市内中学校の4校について

A 既存の部活動

B 2校合同部活動

C 4校合同の部活の実践活動を行った。

・実践活動における主な課題等は下記のとおり。

- ① 送迎等、保護者の負担が増えると見込まれるため父兄には十分な説明をして理解を得ておく必要。
- ② 現在はモデル事業なので指導者謝金財源は補填されるが、今後の指導者に対する謝金、交通費の支払いについてどのような形になるのかの検討が必要。
- ③ 競技力向上や協議を楽しむ活動など、生徒や保護者の意見を確認し、慎重に活動内容を検討する必要がある。
- ④ 活動方針などを地域指導者・顧問・生徒・保護者等で適宜確認することが必要。
- ⑤ 不測の事態に備え、非常時連絡体制の作成が必要。
- ⑥ 活動時における出欠連絡方法の調整が必要。
- ⑦ 練習試合の調整、大会申し込みなど、学校、地域指導者、保護者との連携及び役割の検討が必要。
- ⑧ 地域移行に向けた生徒・保護者の理解促進、周知徹底が必要。
- ⑨ クラブ、選抜チームにおける、中体連関係大会への参加がどうなるのか。

(4) パネルディスカッション

- PTA 連合会・東朋中学校・大船渡市スポーツ協会・バスケットボール民間クラブ・芸術文化協会の代表者等によるパネルディスカッション
- テーマ「望ましいスポーツ・文化活動の環境づくりのために、今できること」
- 主な意見等は次の通り

- ① 地域移行に向けた生徒・保護者等への情報説明が不足しているのが不安が大きい。
- ② 地域移行になった場合の父兄の業務的負担・経費的な負担がどうなるのか不安。
- ③ モデル事業であれば国からの事業費の支援があるが、地域移行を継続的に行うためには経費支援が必要である。
- ④ 学校の働き方改革での見直しであるが、部活動の主体は生徒である。生徒が楽しく、生き生きとした部活動が出来るような観点での見直し検討をすべきである。
- ⑤ 学校、地域指導者、保護者との連携が必要である。
- ⑥ クラブ部活動の実施については父兄のサポートが必要であるが、父兄のサポートが無い場合は部活動が出来なくなる。それが問題である。
- ⑦ 指導者謝金は必要であるが、一方では、指導者からは謝金を受領しての指導はプレッシャーとの意見もある。
- ⑧ 学校の働き方改革で全ての部活動がなくなるのはいかかなものか。義務教育の大切な中学校の3年間の生徒の人格形成のためにも、部活動が学校教育でなくなるのはどうなのか。総合文化部などは、美術、技術などの先生方が連携して対応するなどすれば、あまり先生方の負担のない状況での対応が可能とも考える。生徒には様々な可能性があるため、特定の部活のみではなく様々な文化芸術活動に触れていただくことも必要である。運動部の生徒が文化部の活動で力を発揮する例もある。当協会は、毎年芸術体験イベントを行っている。今年度も60種目について6,000名を超える方が参加した。様々な文化芸術に触れる機会を設けて行くことも必要である。

〈スポーツ庁地域スポーツ課 鴨志田課長補佐〉

- ・ 休日の部活動の地域移行については、当初は令和5年度から3年間で移行完了の方針であったが、地域には様々な課題があり、すぐには移行完了は難しいとのことで、3年間のしぼりは無くした。
- 地域クラブへの移行が難しいところは、学校部活動の地域連携に取り組むなど、地域の実情に応じて当面は「学校部活動の地域連携」と「地域クラブ活動への移行」は併存しても良いこととしてしている。当面は過渡期なので、地域の実情にあった対応を検討していくこととしてしている。